

＜一般的採点基準＞

- a 誤字・脱字・略字・表現未熟・文末表現ミス・文末句点なし等……マイナス1点。設問毎に減点
- b 解答欄の不正使用(挟み込み、一行に二行書き、はみ出し、小さい文字での書き過ぎ、その他)……当該設問は失格
- * 解答欄一行は二五〇三〇文字程度
- c 比喩表現のママなど……減点もしくは加点無し
- d 必須ポイントについて。必須ポイントは、これがクリアされていなければその時点で失格。ただし、必須項目が「加点はされないものの、構文や内容上はほぼ適切であるもの、減点により得点のないもの」等であれば、「必須」の条件自体はクリアしたものとして、他の基準部分は採点する。

＜設問別採点基準＞

【第一問】

一 (16点)

万人に訪問権と滞在権を認める歓待の思考は理性に規定された普遍的義務である。戦前以来の排外主義的発想を根本から転換するには、日本人の一人一人が外国人と同様に日本での訪問権と滞在権を平等に認められた者として自己を捉えなおす必要があるということ。(二二〇字)

- *①と③もしくは⑤のいずれかとば、必須ポイント
- ① 主題＝日本人一人一人に求められること 1点
- ② 構文＝「く求められている」の適切な置換 1点
- ③ 「自己を再発見する」＝「客」として「起源」の歓待を受けることが、自己を自己たらしめる＝日本での訪問権や滞在権を認められた者として・日本人である自分を再認識(再定義)する 3点・2点
- ④ 戦前以来の排外主義的発想を根本から転換する 2点
- ⑤ 日本人を外国人と平等であるとみなす 2点
- ⑥ 歓待(の思考)＝誰にも・訪問権・滞在権を認める 3点
- ⑦ 歓待＝普遍的義務・理性に規定された義務 2点

二 (各2点)

- a 切迫 b 糧 c 依然

【第二問】

一 (5点)

筆者は、郷土の地形について漠然とした印象しかなく、郷土の山々については名すら知らず、無知の自覚もなかったといふこと。

*①・④は、必須ポイント

- ① 筆者の郷土の地形について 1点
- ② 漠然とした印象しかなかった 1点
- ③ 郷土の山について名も知らなかった 1点
- ④ 無知であるとする分かつていなかった 2点

二 (5点)

筆者は、母親と三歳で死別し、育ててくれた祖母も亡くなり、中学一年で郷土を出て久しいので、親しい村人がいないといふこと。

*⑤は、必須ポイント

- ① 筆者は中学一年まで郷土で暮らした 1点
- ② 母親は三歳で亡くなった 1点
- ③ 育ててくれた祖母は亡くなっている 1点
- ④ ①以来、郷土を離れて久しい(長く疎遠である) 1点
- ⑤ 村人の中に親しい人がいない 1点

三 (5点)

生家が廃屋となり、手入れする者もなく放置された持ち山は、祖母と過ごした頃の記憶とは異なり、荒れて不気味であったから。

*①・④は、必須ポイント

- ① 放置された持ち山は・荒れていた 2点
- ② 生家が絶えた 1点
- ③ 祖母といた頃とは異なってしまった 1点
- ④ 光景を不気味に感じた 1点

四 (5点)

山歩き喜びで消えたかぜの症状が、郷土を捨てたうしろめたさや山路の恐怖、妻への不安な想像で再発する気がするから。

*③は、必須ポイント

- ① 山歩きでかぜの症状が消えていた 1点
- ② 郷土を捨てた後うめたさ・山路の恐怖・妻への不安 3点
- ③ ②のせいでかぜの症状がぶり返す気がするから 1点